

第5回 蓄電池産業戦略推進会議 議事概要

日時：2025年6月19日（木）14時00分～15時25分

場所：Web 会議

議事要旨

「資料3：これまでの会議を踏まえた整理」を事務局より説明。電池サプライチェーン協議会より米国関税の電池産業への影響を説明。委員からの発言要旨は以下のとおり。

1. 国内基盤拡充のためのパッケージ

- 中長期的に脱炭素を進める方向性は、国内外ともに変わるものではなく、「将来蓄電池の需要が増加する時代に向けて準備を怠ってはならない」とのメッセージに強く賛同。
- 人材のエコシステムや人権・環境デュー・ディリジェンスも含め、日本の強みを生かしたサプライチェーン構築に向けて手を緩めることなく、先を見据えた施策をお願いしたい。
- 蓄電池メーカーと製造装置メーカーの競争力の両方を高める製造装置のラインインテグレート機能の強化は非常に重要。また、製造装置メーカーだけでなく、建物やユーティリティ設備のメーカー等、企業の枠を越えて設備の効率化や類似技術の統一化を図ることが必要。
- BEVの導入ペースが鈍化する中、HEVが再び市場で競争力を持ってきており、数も増えてくるため、HEV及び将来需要が高まるであろうBEVの電池の強化政策は緩めなく継続していくことが重要。
- 蓄電池の性能を決める部材も、他国での進化がかなり進んでおり、設備や開発に支援を行い、取組を加速することが必要。

2. グローバルアライアンスとグローバルスタンダードの戦略的形成

- 日本の技術や競争力の強みである、安全性・信頼性をしっかり活かせるような政策をとっていただきたい。
- 車載用電池の安全性は、車載した際の性能のみならず、蓄電池を輸送する際にも重要。グローバルスタンダードの形成に向けても産学官で協力すべき。

3. 上流資源の確保

- 上流資源確保は、蓄電池や自動車、部素材メーカー等の協力なくして行うことができないため、下流部門と連携して進めることが必要。
- 現在の不透明な状況では、特定国に依存する資源の多角化を民間のみで行うことは困難であり、官民で将来を見据えた対応の検討が必要。

4. 次世代技術の開発

- アカデミアは、単に論文を出すのみにとどまることなく、それをベースにして強い特許を作り上げることが重要。
- 蓄電池の開発に合わせて製造設備の開発速度や効率を上げるためには、早い時期から蓄電池メーカーと設備メーカーが連携して取り組むことが重要。

- 価格低減のための要素技術開発や資源リスクに対応した新たな材料開発等は、蓄電池メーカーだけでなく、材料メーカーをはじめとした産学官で緊密に協力し、サプライチェーン全体で取り組むことが必要。
- 「これまでの会議を踏まえた整理」において、国内の産学官が協力し合える拠点機能の強化に言及していることを高く評価したい。

5. 国内市場の創出

- 全固体電池を含めた安全性評価方法等の策定には、しっかりと取り組んでいただきたい。また、リユースを含めた使用後電池の安全性確保について、より確度高く診断する方法の策定や標準化が、日本製品の強みを公正に評価する上で重要。
- 系統用蓄電池は、今後生成 AI 等で電力需要が増大することが見込まれる中、安全性規格・基準に基づく第三者認証やサイバーセキュリティ強化等により、より高い安全性・信頼性を有する蓄電池の導入が進む環境を整えていくことが重要。
- 車載用蓄電池も、更に高い水準の規格や基準を策定し、より高安全・高品質な蓄電池の導入を進めていくことが必要。

6. 人材育成・確保の強化

- 関西蓄電池人材育成等コンソーシアムを全国展開する際の一番のネックとなるのは、多くの人的リソースが必要となる実習部分であり、大学等の教育機関にもしっかりと協力いただきたい。

7. 国内の環境整備強化

- 国内でブラックマスを確保するためには、ブラックマスメーカーが適正価格で事業に取り組むことのできる仕組みが必要。欧州バッテリー規則を考慮すると、国内のみではブラックマスの量が不足し、海外からの調達が必要となるため、他国との競争で負けないシナリオが必要。